

平成 30 年度 学校経営方針

津市立高野尾小学校

I はじめに

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している現在、教育をめぐる課題もますます複雑化・多様化し、経済的格差の拡大や家庭・地域の教育力の低下など多くの課題が取り上げられるようになってきました。子どもたちには知識や技能を活用できる能力や豊かなコミュニケーション能力、感性・情緒・知的活動の基盤である言語能力の育成が強く求められています。また、いじめや不登校など、子どもたちの心身の健康についてもきめ細かな配慮が必要となってきています。

そこで、本校ではキャリア教育の理念を中心に据え、「自主・自立」、「凡児徹底」を重視し、子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進しながら、継続した学校経営の工夫・改善に取り組めます。また、自己肯定感を高め、将来を展望した自己実現力、社会貢献力など、人間としての総合的な力を育むことをめざした多様な体験活動にも計画的に取り組めます。

さらに、小中一貫教育のさらなる充実を図り、9年間を見通した系統的な教育を進めます。また、「地域とともにある学校」として、学校支援本部との協働を一層進め、学校・保護者・地域が一体となって安心・安全な環境づくりに努めると同時に、地域の人的・物的教育資源を生かした創意工夫のある教育活動を展開します。

II 学校教育目標

子どもたちに、夢・笑顔・やる気・元気を！

— 将来自立した社会人になるための基礎づくり —

めざす子ども像

(1)自ら考え、進んで学習する子

- ・話をよく聞き、自分の考えを自分の言葉で豊かに表現する子
- ・基礎・基本を確実に身につけ、学んだことを活用できる子
- ・失敗を恐れることなく、目的意識をもって意欲的に学習に取り組む子

(2)思いやりがあり、仲間とともに高まる子

- ・相手の立場になって考え、人のため、学級・学校のために尽くせる子
- ・責任を自覚し、仲間とともに活動し、喜びを分かち合う子
- ・自ら生活目標をもち、その実現に向け粘り強く努力する子

(3)生命や健康を大切にし、たくましく成長する

- ・自分のめあてをもってチャレンジし、最後までやりぬく子
- ・命を大切にし、健康でたくましく生活する子
- ・基本的生活習慣を身につけた子

めざす教師像

情熱・使命感にあふれ、教育実践を大切にする教師

- ・職責を自覚し、指導力の向上に努める教師
- ・人権感覚に富み、子どものよさを引き出し伸ばす教師
- ・子ども、保護者、地域の人々から信頼され、親しまれる教師

《チーム高野尾》

- A 学力向上プロジェクトチーム→ 学力の向上、道徳教育、図書館教育、国際理解
- B 心の育成プロジェクトチーム→ 特別支援、人権教育、環境教育、情報教育
- C 体力向上プロジェクトチーム→ 体力・運動能力の向上、健康の保持・増進、生徒指導、安全・防災教育、食教育・給食指導
- D キャリア教育チーム → キャリア教育、学校支援本部

めざす学校像

家庭・地域との協働で子どもを守り育てる地域立の学校

- ・学ぶ楽しさ、共に生きる楽しさが尊重される学校
- ・創意と活気に満ち、楽しさと厳しさを併せ持つ学校
- ・地域力を活かした、安全・安心な学校

Ⅲ 現状と課題

本校では、およそ10年前からキャリア教育の研究・実践を重ね、自ら考え、主体的に判断し、行動する実践力、新しいことに挑戦しようとする意欲・態度を育てることに重点を置いてきた。また、読み・書き・計算の基本的な学習内容の定着とともに、情報を収集・選択・整理する力や言語力（表現力）育成にも力を入れてきた。

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語及び算数のA・Bのすべてで全国平均を上回った。特に、国語Bでは、全国平均を10ポイント近く上回っていた。しかしながら、学習に真面目に取り組んではいないが成果が表れない児童への指導・支援や、特別な支援を要する児童の学力の定着が大きな課題である。また、質問紙からは、自尊感情の高さや他者への理解・関心が高いことが分かる。また、日々の各学級の授業や体験学習、児童集会の取組等から、学習意欲の高まりや、視野が広がり、地域の人々や自然への関心・愛着、規範意識が育ってきていることが感じられる。

豊里中学校区小中一貫教育の本格実施3年目である。小中一貫教育推進に係る各専門部会での情報交換、小中学校合同で行う人権フェスティバル、中学校での活躍の様子などから、今のところ、中学校への接続がスムーズになされていると考えられる。今後も、小中一貫カリキュラムを用いた実践を積極的に進めるとともに、生徒指導に係る豊里中学校教員との話し合い、特別支援教育に係る情報共有、授業公開や研究協議等をさらに充実させていきたい。

○キャリア教育の実践を深めるために

ア. 情報を自ら進んで集め、選択し、整理して伝える力

私たちは、日々の授業を中心に、個々の児童の到達度、習熟度や変容など、学びの状況をきめ細かに、できる限り客観的データに基づいて把握することに努めなければならない。そして、教科への興味・関心度を高め、テストで高得点を取れるようにすることをめざすが、一方では、情報を主体的に集め、論理的に考え、わかりやすく伝える力はキャリア育成には欠かせない。その育成は、本年度も重点的に取り組みたいテーマである。

イ. 当たり前のことを、一生懸命に取り組む姿勢（凡事徹底）

「挨拶をする」「家庭学習を忘れない」「時間に遅れない」「約束を守る」「整理整頓をする」ことの5つを確実にできるようにさせたい。挨拶を交わすことによってコミュニケーションの輪は確実に広がるし、整理整頓をすることですがすがしい気持ちになり、校舎内や玄関を美しくすることで心が磨かれる。ゲストティーチャーやボランティアに御礼の手紙を書く、授業時間に遅れない、約束したことは守る、といった当たり前のことを、子どもたちにやり続けさせることで、立派な社会人への基礎

づくりに繋がるはずである。

ウ. 人のために貢献する豊かな心

本校では、児童の大部分が「人の役に立ちたい」と考えている。家族のため、学級・学校のため、外国の友達のため、地域社会のために貢献しようとすることは、基礎学力や体力・運動能力と同様にキャリア育成のベースとなるものであり、その育成・向上に粘り強く取り組むことが極めて重要である。そのうえで、地域人材や外部講師との出会いを生かしながら、本校の特徴的な取組である「起業家教育」を核としたキャリア教育の実践をさらに充実していきたい。こうした積み上げが自ら考え、判断し、行動する力（自主・自律）につながると考える。

エ. 強みを活かす

小規模校であるがゆえに一人一人が体験できる時間、ふれあうことができる時間を多くもてることや、学校支援本部という支援組織があることを強みとする考え方が定着してきている。本校独自のキャリア育成プログラムをさらに深化させたい。

○豊かな仲間関係を築くために

序列化した人間関係から豊かな関わりのもてる仲間にするため、友達の良いところを見つける、家庭・学級・学校・地域に関心をもつ、外国（特にラオスの友達）との交流を深めることを、大切にしたい。そのため、児童会活動、全校縦割り班活動や異学年交流を取り入れた教育活動に工夫を凝らすとともに、一人一人が大切にされる学級集団を築き、「自尊感情」や「自己有用感」を育成する教育を充実する必要がある。日記や作文などを綴らせることをすべての学年で取り入れ、教師と子ども、子ども同士のつながりを一層深めたい。

○中学校へスムーズに移行できるようにするために（小中一貫教育の推進）

中1ギャップ解消のため、豊里中学校区で「目指す子ども像」「目指す学校像」について熟議を重ね、9年間を見通したキャリア教育推進方針を策定した。今後も、小中一貫教育に関する組織体制をさらに整え、校区内で統一した“小中一貫教育のための研修日”を位置づけ、趣旨を共有するための全体会や、課題ごとの専門部会を開催する。小学校間の授業交流、小6と中1の教員の話し合い、中学校区での公開研究授業と協議などを行い、小中一貫教育の実践を徐々に積み上げていきたい。さらに、それを保護者や地域住民に周知することで、進路への不安の解消を図りたい。

○体力・運動能力を高めるために

キャリアを育成するうえで、基礎体力をつけることや健康に関して自己管理能力を身につけることも極めて重要な要素である。そのために、毎年実施している体力・運動能力テストのデータを基に個々の実態を把握し、弱点克服のためのトレーニングを、体育の授業を中心に積極的に取り入れていきたい。水泳やソーラン踊りには引き続きエキスパートを招聘し、技能向上を図りたい。また、身体を動かすことを嫌いにさせてはならず、主体的に運動に親しめるよう、マラソンや縄跳びの「がんばりカード」などをすべての学年で活用したい。

また、保護者や学校医と連携して、児童の基本的な生活習慣の徹底を図るとともに、歯、眼、肥満等自らの健康や食生活への関心を高め、児童自ら自己管理できるようにしなければならない。

○「地域とともにある学校」として取組を深めるために

保護者や地域と目標を共有し、一体となって子どもを育てることが、子どもたちの豊かな成長につながることは、本校を含めた多くの学校の実践により明らかである。保護者及び学校支援本部のメンバーが学校運営に参画することで、大きな成果を上げているので継続して取り組みたい。

さらに、「土曜授業」を活用し、PTAはもちろん、自治会（社会福祉協議会、青少年育成会を含む）、老人会等の関係機関と連携し、学力向上を主たるテーマとしてキャリア育成のための充実した

取組を行い、確かな成果を上げたい。

Ⅳ 重点目標と具体的な行動計画

(1) 自立した社会人となるための基礎をつくるキャリア教育を推進する。

- 1 基礎学力の確実な定着を目指す学習指導の充実を図ります。
- 2 学習意欲を高め、発展的・応用的に考える力をつける授業づくりに努めます。
- 3 人との関わり方を学び、コミュニケーション能力の育成に努めます。
- 4 学校支援本部との協働によるキャリア教育を進め、生きてはたらく力の育成に努めます。
- 5 体力・運動能力の実態を把握し、個に応じた指導の充実を図ります。
- 6 家庭学習の習慣化を図ります。

(2) 人権尊重の精神を基調にした心の教育を充実する。

- 1 子ども一人一人のニーズに応じた特別支援教育を推進します。
- 2 すべての教育活動を通して、人権教育を推進します。
- 3 学校図書館の充実と豊かな情操を育む読書活動を推進します。
- 4 異文化に触れ国際感覚を身につけさせるため、国際理解教育を推進します。
- 5 時間管理能力を高めます。

(3) 保護者や地域住民(学校支援本部)と学校経営方針を共有し、地域ぐるみで子どもを守り育てる「地域とともにある学校づくり」を進める。

- 1 学校経営方針を保護者及び学校支援本部等と共有します。
- 2 「学校だより」「学級通信」等で、学校の情報を保護者や地域に定期的に発信します。
- 3 子ども、保護者、地域の方々の声を積極的に収集し、教育活動に活かします。
- 4 健康・安全管理の徹底を図り、安全・安心な学校づくりを推進します。
- 5 地域との連携を深め、子どもたちが地域に愛情を持つことのできる教育活動を推進します。

(4) 教育環境の美化と整備に努める。

- 1 落ち着いた教育環境づくりのため、清掃・美化活動を徹底します。
- 2 校内掲示を工夫し、学習での活用とともに教育活動の様子を積極的に提供します。

(5) 校内研修の充実により教員の力量を高めるとともに、活力ある組織づくりに取り組む。

- 1 教育目標・努力目標の実現を目指して実践的研修や授業研究を行い指導力の向上を図ります。
- 2 教育の今日的な課題について研修を深め、教育実践に生かします。
- 3 児童一人ひとりの理解を深めるため、生活実態及び課題を担任を中心に把握し、その情報を全教職員が共有します。
- 4 教職員が「チーム高野尾」の一員として信頼し合い、もてる力を思い切り発揮できる組織づくりに努めます。
- 5 ワーク・ライフ・マネジメントを進め、教職員の心身の健康増進や総勤務時間縮減及び休憩時間の確保等に向けて意識の向上を図り、会議の簡素・効率化、定時退校デー（毎週木曜日）の実施、業務の見直しや精選に取り組みます。具体的な目標を次のようにします。（１）時間外労働時間は、教職員一人の月あたり、昨年度より５時間削減します。（２）休暇取得の日数は、教職員一人の年あたり、昨年度より２日増やします。（３）一つの会議につき、１０分の短縮を行います。（４）月８０時間以上の時間外労働者を出さないよう仕事の分担を行います。
- 6 職場安全衛生会議等を生かして多様な職種の職員の声を受け止めながら、風通しのよい職場づくり、より健康的で働きやすい職場環境づくりに努めます。